（紹介先病院 → 患者様用）

**PET-CT検査説明書**

**ＰＥＴ－ＣＴについて**

1. 放射性同位元素(１８Ｆ)をつけた薬剤（ＦＤＧ)を静脈注射し、約１時間の安静後に全身撮影を行います。体内の糖代謝の状態をみることで、がん等の疾患を探す検査です。
2. この検査はX線を用いたCT検査を併せて行うことで、より正確な診断が可能となります。

**ご理解いただきたいこと**

1. PET-CT検査のみで診断が確定するものではありません。見つかりにくい腫瘍（１㎝以下）や転移病巣があり、他の検査との併用が必要になる場合があります。
2. 薬剤は良性疾患にも集積し、良性・悪性の判断が困難な場合があります。
3. 糖尿病の場合、病変の検出が困難になる場合があります。
4. 他の検査・治療の影響で正確な検査結果が得られない場合があります。
5. PET-CT検査前１週間以内の胃・腸のバリウム検査
6. PET-CT検査前３週間以内の化学療法
7. PET-CT検査前３ヶ月以内の放射線治療

**検査の正当化（必要性）、放射線被ばく、線量の最適化について**

1. PET-CT検査は、放射性同位元素とCT装置を用いるため、放射線による被ばくがあります。

　検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合にのみ検査を行います。

1. PET-CT検査は、通常の投与方法では臓器に障害を及ぼすことはありません。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 核医学検査の被ばく線量(標準的な体重の成人) | 検査名 | 推定被ばく線量 |
| PET-CT(全身:頭頂から股下) | ７～１２mSv |

1. 100ミリシーベルト(mSv)未満の被ばくでは、明らかな発がんのリスクの上昇は認められておらず、

食事やストレス等の因子と区別が出来ないといわれています(確率的影響)。

1. 当院では、法令や関連学会のガイドラインを参考に、放射線量の最適化を行っています。
2. 薬剤の副作用は極めて稀に軽度のアレルギー反応があるといわれていますが、重篤な副作用の報告は

ありません。

**検査の注意事項について**

1. 妊娠中あるいは妊娠の可能性のある方､授乳中の方は検査ができない場合があります｡
主治医に必ず申し出てください
2. 検査は20～30分間の静止が必要となります｡無理な場合､検査を行うことが出来ません｡
3. 入れ歯､補聴器､指輪などの身に付けている金属類は外していただきます｡かつら(ウイッグ)についても外していただく場合があります｡
4. 患者様本人にしか使えない高価な特殊薬品を準備しますので､検査前日(検査前日が休日の時は､休日開始の前日)午後以降の検査キャンセルについては､病院の損失が高額になりますので､ご理解ご協力をお願いします｡

**その他について**

　医療機器・医療材料のより安全で、より適切な使用および操作を図るため、手術、検査・処置中の現場に医療

機器メーカー及び業者が立会い、取扱い説明等の情報提供を受ける場合がありますので、ご了承いただきたい

と思います。ご了承いただけない場合は、遠慮なくお申し出ください。

検査に関する説明をしました。

別紙にて問診した結果、検査可と判断します

紹介先病院名　　　　　　　　　　　　　　　　　　主治医名

（当院診療録用）

**PET-CT検査同意書**

|  |
| --- |
| 私は、主治医からPET-CT検査についての説明を受け、理解しましたので、検査を受けることに同意します　ただし、検査実施前に、この同意を撤回することもあり、その時には同意撤回書を提出します。　署名年月日　　　　 　　年　 　　　月　　　　 日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※患者さんが18歳以上で署名できる場合は、代諾者（家族等）の署名は不要です。　※代諾者（家族等）と同席者が同じ場合は、同席者の署名は不要です。　患者名 (必須)　　　　　　　　　　　　　　　 　 　代諾者名 (家族等)　　　　　　　　　　　　　　　　　(患者との続柄： 　 )　患者側同席者　　 　　　　　　　　　　　　　　　　 (患者との続柄： 　 )香川県立中央病院長　 殿 |